

ISDN回線の接続について

使用するWAN回線と回線速度および運用形態を設定します。

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [ISDN回線の接続について] をクリックします。
[ISDN回線の接続について] 画面が表示されます。
- 3 ISDN回線の2回線あるBチャネルの利用方法を説明します。
4種類のISDN接続形態の中から、設定する接続形態をクリックします。

ISDN回線の接続について

現在の形態: 同時2箇所接続

他の形態: 同時1箇所接続・自動MP接続・強制MP接続

接続形態	説明
同時1箇所接続	ISDN#1だけを通常回線として使用します。
自動MP接続	ISDN#1を通常回線、ISDN#2をトラフィック分散回線として使用します。トラフィック分散回線の接続/切断はトラフィック量に応じて自動的に行います。
強制MP接続	ISDN#1を通常回線、ISDN#2をトラフィック分散回線として使用します。トラフィック分散回線の接続/切断は、通常回線の接続/切断に連動します。
同時2箇所接続	ISDN#1およびISDN#2を通常回線としてそれぞれ別の相手と接続します。

次ページへ続く

4 運用形態を設定します。

B1:
 接続方法: 手動接続 自動接続
 自局電話番号:
 自局サブアドレス:
 契約番号での着信: する しない
 データ圧縮(StackLZH): する しない
 TCP/IPヘッダー圧縮: する しない

B1、B2共通:
 着信時の発信者番号チェック: する しない
 着信時のPPP認証: する しない

- [接続方法]
手動接続するか自動接続するかを選択します。
- [データ圧縮 (StackLZH)]
データ圧縮の方法を選択します。
- [自局電話番号]
自局のISDN番号を入力します。
- [TCP/IPヘッダー圧縮]
TCP/IPヘッダ圧縮をするかどうかを選択します。
- [自局サブアドレス]
自局のISDNサブアドレスを入力します。
- [着信時の発信者番号チェック]
登録した相手以外からの着信を受け付けるかどうかを選択します。
- [契約番号での着信]
グローバル着信を受け付けるかどうかを設定します。
- [着信時のPPP認証]
着信時に相手のPPP認証を行うかどうかを選択します。

5 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

6 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
 (← P 39)

ダイヤルアップ接続用認証データの複数登録

ダイヤルアップ接続するときに使用する認証IDとパスワードを合計4つまで設定することができます。4つのうち1つは簡単設定で設定した認証IDとパスワードが設定済みになっています。

1 ルータの [便利な設定] をクリックします。

2 [ダイヤルアップ接続用認証データの複数登録] をクリックします。

3 認証IDとパスワードを設定します。

ダイヤルアップ接続用認証データの複数登録

認証ID	パスワード
1. kantansetteidesetteishitaID	kantansetteidesetteishitapassword
2. <input type="text"/>	<input type="text"/>
3. <input type="text"/>	<input type="text"/>
4. <input type="text"/>	<input type="text"/>

• [認証ID]

プロバイダを使用する場合は、プロバイダから指定されたユーザID（ホスト名称）を入力します。半角英数字127文字以内で入力してください。ルータの簡単設定の中の [ISDNダイヤルアップ接続] で設定したユーザID（ホスト名）がデフォルトとなります。

• [パスワード]

CHAP認証またはPAP認証機能を使用する場合の応答用パスワードを入力します。

プロバイダを使用する場合は、プロバイダから指定されたユーザパスワードを入力します。半角英数字31文字以内で入力してください。

4 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

5 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。

(← P 39)

4
使
う
ル
ー
タ
機
能
を

ISDN回線接続先の登録

ダイヤルアップ接続を行なうときは、接続先の相手を最大20件まで登録できます。ISDN回線のリモートターゲットとリモートターゲットのISDN番号、発着信認証モードとパスワードなどの設定を行います。

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [ISDN回線接続先の登録] をクリックします。
- 3 登録先を追加またはレコードを選択します。
新規または追加でISDN回線接続先を登録するときは、[新規登録] をクリックします。
- 4 相手の電話番号・サブアドレスと認証データを設定します。

- [相手の電話番号]
宛先のISDN番号を市外局番から入力します。
32桁以内で入力してください。
- [相手のサブアドレス]
サブアドレスを使用するときは半角英数字19文字以内で入力してください。
- [next gatewayとして接続するときの回線インタフェース]
接続する際に使用するインタフェースを選択します。
- [ダイヤルアップ接続時の認証データ]
ダイヤルアップで接続するとき使用する認証データのグループ番号を選択します。グループ番号は「ダイヤルアップ接続用認証データ複数登録」で設定します。

ワンポイント

登録済みのISDN回線接続先を修正または削除するとき

手順3で、修正または削除するレコード番号をクリックしてください。レコード内容が表示されたら、内容の修正または削除をクリックして選択します。

以降の操作は新規登録時と同じ操作です。

続けて登録済みのISDN回線接続先を修正または削除するとき

登録済みのISDN回線接続先の修正または削除後、続けて他のレコードの修正・削除をすることができます。画面下部の「他の選択」で修正または削除するレコード番号をクリックしてください。

5 着信時の認証方法などを設定します。

1. 着信時の相手認証用の
ID: [] パスワード: []
登録電話番号を [] 桁飛ばして着番号チェックする

- [着信時の相手認証用ID]
外部からアクセスがあったときに、認証に使用する着信IDを入力します。また回線を接続する際、相手の名称としてこのIDを指定します。(☞P251)
- [着信時の相手認証用パスワード]
外部からアクセスがあったときに、認証に使用する着信パスワードを入力します。
- [着番号読み飛ばし桁数]
着番号読み飛ばし桁数を0～30の範囲で入力します。

6 無通信監視時間・連続接続状態の監視時間を設定します。

1. ID: [] パスワード: []
登録電話番号を [] 桁飛ばして着番号チェックする
接続時の無通信監視: しない する(無通信が [] 秒続くと回線を切る)
連続接続状態の監視: しない する(連続 [] 時間まで接続可能)

- [接続時の無通信監視]
一定時間通信がなかったときにISDNを切断するかどうかを設定します。設定する場合は、[する] をクリックし、無通信時間が何秒続いたらISDNを切断するかを入力します。無通信時間は0～3600秒の間で設定できます。
- [連続接続状態の監視]
ISDNの連続接続時間を監視し、ここで設定した時間以上ISDNが接続したままの状態が続いた場合、設定している相手とは接続できません。
設定する場合は、[する] をクリックし、通信時間が何時間続いたらISDNを切断するかを入力します。この機能はMUCHO-EXでご利用になれます。

次ページへ続く

ルータの便利な設定

7 PIAFS接続の有無を設定します。

PIAFSを使った接続を利用するときは、[する] をクリックしてください。PIAFS接続をする場合は、64K、32Kのどちらかを選択してください。

登録電話番号を 桁飛ばして着番号チェックする

接続時の無通信監視: しない する(無通信が 秒続くと回線を切る)

連続接続状態の監視: しない する(連続 時間まで接続可能)

PIAFS接続: しない する(32k) する(64k)

8 コールバック要求の設定をします。

本装置から接続先に電話をかけて、接続は行わずに本装置の電話番号だけを接続先に通知し、接続先から本装置に電話をかけ直して接続することができます。コールバック要求を行うときは、[する] をクリックし、[通知された所へする] または [登録している所へする] のどちらかを選択します。

コールバック:

しない

する(無課金) 通知された所へする 登録している所へする

される(無課金) 通知した所へされる 登録されている所へされる

9 コールバック受付の設定をします。

接続先から本装置に対し電話をかけ直すように要求があった場合に、かけ直しをするかどうかを設定します。コールバックを受付るときは、[される] をクリックし、[通知された所へされる] または [登録している所へされる] のどちらかを選択します。

コールバック:

しない

する(無課金) 通知された所へする 登録している所へする

される(無課金) 通知した所へされる 登録されている所へされる

10 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

11 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。(←P39)

DHCPサーバ機能

本装置に接続している端末に対して、自動的にIPアドレスを割り当てるかどうかを設定します。自動的にIPアドレスを割り当てない場合は、各端末それぞれに手動でIPアドレスを割り当ててください。

DHCPサーバ機能が「on」の時、DHCPアロケート開始アドレス(配布先端末の指定で指定されたIPアドレス)から始まり、DHCPアロケート数(割り付けて可能なIPアドレスの個数)分のIPホストアドレスを割り当てます。DHCPアロケートアドレスが 0.0.0.0 の場合は、LANインタフェースに設定されたIPアドレスが属するネットワーク番号内の最初のホストアドレスからDHCPアロケート数で示される分のIPホストアドレスを割り付けます。

「IPアドレス」が割り当て可能かどうかはARPによりチェックします(ARPの応答がタイムアウトした内容を配信可能アドレスとします)。

- 1 ルータの[便利な設定]をクリックします。
- 2 [DHCPサーバ機能]をクリックします。
- 3 本装置のDHCPサーバ機能を使用する場合は、[ON]をクリックします。

DHCPサーバ機能

DHCPサーバ機能: OFF ON

次ページへ続く

4
ルータ機能を使う

4 DHCPサーバの動作と配信データの設定をします。

以降はDHCPサーバ機能がONの時有効となります。

配布IPアドレスの開始値:

LANインタフェースIPアドレスの次から開始する
 [][][][] の値から開始する

デフォルトゲートウェイの通知: しない する

ドメイン名称の通知: しない する
 通知するドメイン名称: [] [] [] [] [] [] [] [] [] []

DNSアドレスの通知: しない する

DNSプライマリアドレス: [][][][]
 DNSセカンダリアドレス: [][][][]

WINSアドレスの通知: しない する

WINSプライマリアドレス: [][][][]
 WINSセカンダリアドレス: [][][][]

- [配布IPアドレスの開始値]
 配布IPアドレスの開始値を、LANインタフェースのIPアドレスの次から開始するのか、または指定したIPアドレスから開始するのかを選択します。指定したIPアドレスから開始するときは、IPアドレスを入力してください。
- [デフォルトゲートウェイの通知]
 DHCPサーバを利用する時、LANインタフェースのアドレスをデフォルトゲートウェイとして通知するかどうかを選択します。
- [ドメイン名称の通知]
 ドメイン名称を通知するかどうかを選択します。通知するときは、ドメイン名称を半角英数字40文字以内で入力してください。
- [DNSアドレスの通知]
 DNSアドレスを通知するかどうかを選択します。通知するときは、DNSサーバ(ネームサーバ)のIPアドレスを入力してください。セカンダリまで設定できます。
- [WINSアドレスの通知]
 WINSアドレスを通知するかどうかを選択します。通知するときは、NetBIOSサーバのIPアドレスを入力します。最大2件まで登録できます。

お知らせ

DHCPサーバを使用するにはサーバからIPアドレスを取得する設定が、クライアント側に必要です。

5 DHCPスタティック登録をします。

最大16件まで登録することができます。

配付アドレスのスタティック登録:

	配付先端末の指定 MACアドレス	配付するIPアドレス
1.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
3.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
4.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
5.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
6.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
7.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
8.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
9.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
10.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
11.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
12.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
13.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
14.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
15.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
16.	<input type="text"/>	<input type="text"/>

- [配布先端末の指定]
配布先の端末を指定するためにMACアドレスを入力します。
- [配布するIPアドレス]
端末に対して割り付けるIPアドレスを入力します。

6 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

7 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(← P 39)

ルータの便利な設定

NAT⁺機能

アドレス変換とアドレス変換スタティックを設定することができます。

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [NAT⁺機能] をクリックします。
- 3 本装置のNAT⁺機能を使用する場合は、[ON] をクリックします。

NAT⁺機能

NAT⁺機能: OFF ON

- 4 NAT⁺機能を有効にするインタフェースをクリックします。

以降はNAT⁺機能がONの時有効となります。

NAT⁺機能を効かせるインタフェース:

専用線 ISDN1 ISDN2

[NATスタティック登録](#)

[NAT⁺スタティック登録](#)

- 5 NATスタティック登録とNAT⁺スタティック登録を行います。

NATスタティック登録 (☞ P 231)

NAT⁺スタティック登録 (☞ P 232)

- 6 [送信] ボタンをクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

- 7 [OK] ボタンをクリックします。

設定内容を有効にするには、MUCHO-E/EXのリセットが必要です。(☞ P 39)

NATスタティック登録

LAN側のIPアドレス(ローカルアドレス)とWAN側のIPアドレス(グローバルアドレス)の変換を固定的に設定することができます。16件まで登録できます。この機能はNAT⁺機能がONのときに有効です。

1 NAT⁺機能画面(☞P230)で、[NATスタティック登録] をクリックします。

2 LAN側アドレスとWAN側アドレスを設定します。

LAN側アドレスとWAN側アドレスの間でIPアドレス変換が行われるようにデータを登録します。

	LAN上の端末指定 IPアドレス	外部に見えるIPアドレス
1.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
3.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
4.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
5.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
6.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
7.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
8.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
9.	<input type="text"/>	<input type="text"/>

- [LAN上の端末指定]
NATする際のLAN側端末のIPアドレスを入力します。
- [外部に見えるIPアドレス]
NATで変換後のIPアドレスを入力します。

3 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

4 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(☞P39)

4
ルータ機能を
使う

NAT⁺スタティック登録

IPの宛先ポートにより、変換するローカルアドレスを指定することができます。例えば、ポート5000番宛ての通信はローカル端末Aのポート200番宛てに変換し、ポート5001番宛ての通信はローカル端末Bのポート300番宛てに変換することができます。NAT⁺を利用すると、ダイヤルアップ端末型で契約した場合でも、外部からローカル端末にアクセスすることができます。設定には、ローカル端末のIPアドレス・ポート番号・グローバルアドレスを設定します。32件まで登録できます。この機能はNAT⁺機能がONのときに有効です。

- 1 NAT⁺機能画面 (←P230) で、[NAT⁺スタティック登録] をクリックします。
- 2 アドレス変換スタティックを追加またはレコードを選択します。
新規または追加でアドレス変換スタティックを登録するときは、[新規登録] をクリックします。
- 3 ポート番号まで含めたアドレス変換スタティックを設定します。

ワンポイント

登録済みのアドレス変換スタティックを修正または削除するとき
手順3で、修正または削除するレコード番号をクリックしてください。レコード内容が表示されたら、内容の修正または削除をクリックして選択します。以降の操作は新規登録時と同じ操作です。

続けて登録済みのアドレス変換スタティックを修正または削除するとき
登録済みのアドレス変換スタティックの修正または削除後、続けて他のレコードの修正・削除をすることができます。画面下部の「他の選択」で修正または削除するレコード番号をクリックしてください。

- [IPアドレス(LAN上の端末指定)]
NAT⁺する際のLAN側端末のIPアドレスを入力します。
- [ポート番号(LAN上の端末指定)]
LAN側端末のポート番号を0～65535の範囲で入力します。
- [IPアドレス(外部に見えるIPアドレス)]
接続先から割り付けられる値を使用するかしないかを選択します。使用しない場合は、NAT⁺変換後のIPアドレスを入力します。
- [IPアドレス(ポート番号)]
外部用に割り付けるポート番号を0～65535の範囲で入力します。

- 4 [送信] をクリックします。
設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。
設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。(←P39)

syslogの送信

Syslogを指定先に送信するかどうかを設定します。Syslogサーバと送信するログの種類も設定することができます。

1 ルータの [便利な設定] をクリックします。

2 [syslogの送信] をクリックします。

3 syslogの送信設定をします。

しない する'. Below the subtitle is a note: '以降はsyslogの送信を行う時に有効となります。'. There are four sections, each with a label and a radio button: 'syslogを受け取る端末のIPアドレス: [] [] [] []', 'tlog(errレベル)で送信: しない する', 'elog(warningレベル)で送信: しない する', and 'llog(infoレベル)で送信: しない する'. The last section is partially cut off at the bottom of the screenshot." data-bbox="453 388 733 527"/>

- [syslogの送信]
syslogを送信するかどうかを選択します。
- [syslogを受け取る端末のIPアドレス]
本装置が送信するsyslogを受信するsyslogサーバのIPアドレスを設定します。
- [tlog(errレベル)で送信]
syslog機能を使用して、errレベルでtlogを送信するかどうかを選択します。
- [elog(warningレベル)で送信]
syslog機能を使用して、warningレベルでelog(エラーログ)を送信するかどうかを選択します。
- [llog(infoレベル)で送信]
syslog機能を使用して、infoレベルでllog(LAN・WAN回線の状況)を送信するかどうかを選択します。
- [alog(errレベル)で送信]
syslog機能を使用して、infoレベルでalog(接続要因パケットログ)を送信するかどうかを選択します。

4 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

5 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。

(← P 39)

ISDN回線の接続が可能なパケットの指定

登録してあるパケットだけにISDN回線の接続が許可されます。登録されているパケットがないときは、すべてのパケットに対してISDN回線の接続が許可されます。4件まで登録できます。

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [ISDN回線の接続が可能なパケットの指定] をクリックします。
- 3 パケット先を追加またはレコードを選択します。
新規または追加でパケットを登録するときは、[新規登録] をクリックします。
- 4 パケットを指定します。

ISDN回線の接続が可能なパケットの指定

ここへ登録されているパケットが何も無い場合は、すべてのパケットに対してISDN回線の接続が許可されます。

この内容を [修正する](#) [削除する](#)

1 パケット発行元の指定		
IPアドレス	アドレスマスク	ポート番号
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>
2 パケット受け取り先の指定		
IPアドレス	アドレスマスク	ポート番号
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>
プロトコルの指定: [全て] <input type="text"/>		

ワンポイント

登録済みのパケットを修正または削除するとき

手順3で、修正または削除するレコード番号をクリックしてください。レコード内容が表示されたら、内容の修正または削除をクリックして選択します。

以降の操作は新規登録時と同じ操作です。

続けて登録済みのパケットを修正または削除するとき

登録済みのパケットの修正または削除後、続けて他のレコードの修正・削除をすることができます。画面下部の「他の選択」で修正または削除するレコード番号をクリックしてください。

- [パケット発行元の指定]
ISDNの発信を許可するパケットの発行元のIPアドレス、IPアドレスマスク、ポート番号を入力してください。
- [パケット受け取り先の指定]
ISDNの発信を許可するパケットの宛先のIPアドレス、IPアドレスマスク、ポート番号を入力してください。
- [プロトコルの指定]
ISDNの発信を許可するパケットのプロトコルをtcp/udp、icmp、tcp、udp、任意の中から選択します。任意を選択したときは、0～255の範囲でプロトコルを指定してください。

- 5 [送信] をクリックします。
設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。
- 6 [OK] をクリックします。
設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(← P 39)

IPパケットフィルタリング

中継用・遮断用それぞれに、宛先IPアドレス、送信元IPアドレス、プロトコルを指定して、その条件に合ったデータを中継または遮断するように設定することができます。中継用は32件、遮断用は16件まで設定できます。

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [IPパケットフィルタリング] をクリックします。
- 3 IPパケットフィルタリング機能を使うときは、[ON] をクリックします。

IPパケットフィルタリング

IPパケットフィルタリング機能: OFF ON

- 4 中継するIPパケットまたは遮断するIPパケットを登録します。

中継するIPパケットの登録を行う (← P 236)

上記登録中から中継したくないIPパケットの登録を行う
(← P 237)

以降はIPパケットフィルタリング機能がONの時有効となります。

[中継するIPパケットの登録を行う](#)

[上記登録中から中継したくないIPパケットの登録を行う](#)

特定のIPパケットを中継したくない場合は、中継するIPパケットとして「全て」を登録してから、中継したくないIPパケットの登録に特定のIPパケットを登録して下さい。

- 5 中継または遮断するIPパケットの登録が終わったら、[送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

- 6 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(← P 39)

4
使う
ルータ
機能
を

お知らせ

本装置では、自動でUDPのポート番号137～139発/宛のパケットを切断するエントリが追加されます。

中継するIPパケットの登録

中継するIPパケットを登録します。32件まで登録できます。この機能はIPパケットフィルタリング機能がONのときに有効です。特定のIPパケットだけを遮断するときは、ここではすべてのIPパケットを中継するように登録し、中継したくないIPパケットだけを別途登録してください。(☞P237)

1 IPパケットフィルタリング画面(☞P235)で、[中継するIPパケットの登録を行う]をクリックします。

2 IPパケットを追加またはレコードを選択します。

新規または追加で中継するIPパケットを登録するときは、[新規登録]をクリックします。

3 中継するIPパケットを設定します。

ワンポイント

登録済みの中継するIPパケットを修正または削除するとき

手順2で、修正または削除するレコード番号をクリックしてください。レコード内容が表示されたら、内容の修正または削除をクリックして選択します。

以降の操作は新規登録時と同じ操作です。

続けて登録済みの中継するIPパケットを修正または削除するとき

登録済みの中継するIPパケットの修正または削除後、続けて他のレコードの修正・削除をすることができます。画面下部の「他の選択」で修正または削除するレコード番号をクリックしてください。

• [パケット発行元の指定]

中継するパケットの送信元のIPアドレス、IPアドレスマスク、ポート番号を入力します。

• [パケット受け取り先の指定]

中継するパケットの宛先のIPアドレス、IPアドレスマスク、ポート番号を入力します。

• [プロトコルの指定]

中継する指定プロトコルを選択します。任意を選択したときは、0~255の範囲でプロトコルを指定してください。

• [インタフェースの指定:受信]

中継する受信インタフェースを選択します。

• [インタフェースの指定:送信]

中継する送信インタフェースを選択します。

4 [送信]をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

5 [OK]をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。(☞P39)

中継しないIPパケットの登録

中継の対象となっているIPパケットの中で遮断するIPパケットを登録します。16件まで登録できます。この機能はIPパケットフィルタリング機能がONのときに有効です。

1 IPパケットフィルタリング画面(←P235)で、[上記登録中から中継したくないIPパケットの登録を行う]をクリックします。

2 IPパケットを追加またはレコードを選択します。

新規または追加で中継しないIPパケットを登録するときは、[新規登録]をクリックします。

3 遮断するIPパケットを設定します。

- [パケット発行元の指定]
遮断するパケットの送信元のIPアドレス、IPアドレスマスク、ポート番号を入力します。
- [パケット受け取り先の指定]
遮断するパケットの宛先のIPアドレス、IPアドレスマスク、ポート番号を入力します。
- [プロトコルの指定]
遮断する指定プロトコルを選択します。任意を選択したときは、0～255の範囲でプロトコルを指定してください。
- [インタフェースの指定:受信]
遮断する受信インタフェースを選択します。
- [インタフェースの指定:送信]
遮断する送信インタフェースを選択します。

4 [送信]をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

5 [OK]をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。(←P39)

ワンポイント

登録済みの中継しないIPパケットを修正または削除するとき

手順2で、修正または削除するレコード番号をクリックしてください。レコード内容が表示されたら、内容の修正または削除をクリックして選択します。

以降の操作は新規登録時と同じ操作です。

続けて登録済みの中継しないIPパケットを修正または削除するとき

登録済みの中継しないIPパケットの修正または削除後、続けて他のレコードの修正・削除をすることができます。画面下部の「他の選択」で修正または削除するレコード番号をクリックしてください。

IP RIP スタティック

ご利用になるLAN環境に複数のネットワークがあるときは、経路情報を設定することができます。WAN側またはLAN側で中継したいパケットを受け取った場合、そのパケットを送り出す先の情報を設定することができます。32件まで登録できます。中継先にはIPアドレス指定の他に、インタフェース指定ができます。

1 ルータの [便利な設定] をクリックします。

2 [IP RIP スタティック] をクリックします。

3 IP RIP スタティックを追加またはレコードを選択します。

新規または追加でIP RIPスタティックを登録するときは、[新規登録]をクリックします。

4 IP RIPスタティックのルート情報を設定します。

ワンポイント

登録済みのIP RIPスタティックを修正または削除するとき

手順3で、修正または削除するレコード番号をクリックしてください。レコード内容が表示されたら、内容の修正または削除をクリックして選択します。

以降の操作は新規登録時と同じ操作です。

続けて登録済みのIP RIPスタティックを修正または削除するとき

登録済みのIP RIPスタティックの修正または削除後、続けて他のレコードの修正・削除をすることができます。画面下部の「他の選択」で修正または削除するレコード番号をクリックしてください。

• [通信先の指定]

スタティックルーティングの宛先のIPアドレスとIPサブネットマスクを入力します。

• [中継先の指定]

スタティックルーティングの中継先を指定します。IPアドレス、ISDN接続先指定、インタフェースの指定の中から選択します。

- IPアドレス IPアドレスを入力することにより、中継先を指定します。使用する回線が高速デジタル専用線、フレームリレー以外のときは、登録済みの接続相手を入力します。

- ISDN接続先指定 登録済みの接続相手を入力することにより、中継先を指定します。

- インタフェースの指定 インタフェースを選択することにより、中継先を指定します。

• [メトリック]

宛先へのメトリック値を設定します。

• [プリファレンス]

RIP との優先順位を設定します。プリファレンス値の小さい方が優先順位が高くなります。RIPは100です。

5 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

6 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(☞ P 39)

インタフェースの設定

IPルーティングの使用の有無および使用する場合のインタフェースに関する設定を行います。インターネットプロバイダとISDNダイヤルアップ接続を行う場合は「インタフェースアドレス」と「リモードアドレス」ともに「0.0.0.0」を設定してください。「ブロードキャストアドレス」の設定は必要ありません。

1 ルータの [詳細設定] をクリックします。

2 [インタフェースの設定] をクリックします。

3 LANインタフェース、WAN#1インタフェース・WAN#2インタフェース、シリアルインタフェースを設定します。

シリアルインタフェースはMUCHO-EXだけです。

インタフェースの設定

LANインタフェース: インタフェースアドレス:

インタフェースサブネットマスク:

WAN#1インタフェース:

ISDN1回線(含むFAX接続)、高速デジタル専用線、フレームリレーのいずれかの回線を使用する場合は対象となります。
フレームリレー専用線利用時、ポイントツーポイント選択時はアドレス値の入力は必要ありません。ブロードキャスト選択時は、ローカルDLCIの設定でIPアドレスの設定を行ってください。

ダウン

ブロードキャスト

インタフェースアドレス:

インタフェースサブネットマスク:

ポイントツーポイント

相手インタフェースアドレス:

相手インタフェースサブネットマスク:

4
ルータ機能を
使う

お知らせ

装置リセット後、有効となった内容は「ルーティングインタフェースの表示」画面(ipinterfaceコマンド)で確認できます。

次ページへ続く

ルータの便利な設定

- [LANインタフェース]
インタフェースIPアドレス、インタフェースサブネットマスクを入力し、ブロードキャストをインタフェースIPアドレスとサブネットマスクから算出し、ホスト部がオール1またはオール0となるブロードキャストを選択します。
- [WAN#1・WAN#2・シリアルインタフェース]
 - ダウン 指定インタフェースのルーティングをOFFにします。
 - ブロードキャスト インタフェースタイプがブロードキャストの時に選択します。
選択した場合は、WAN回線側のブロードキャストアドレスを入力します。
インタフェースサブネットマスクには、インタフェースアドレスに対するサブネットマスクを設定します。インタフェースタイプがブロードキャストの場合、新規登録時に設定が省略されると、インタフェースアドレスがクラスAでは255.0.0.0、クラスBでは255.255.0.0、クラスCでは255.255.255.0が設定されます。
省略時は、ホスト部がオール1のアドレスが設定されます。
 - ポイントツーポイント
相手インタフェースアドレスには、相手先のインタフェースアドレスを指定します。省略ができます。
相手インタフェースサブネットマスクには、インタフェースアドレスに対するサブネットマスクを設定します。

4 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

5 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(←P39)

ProxyARPの設定

IPルーティングを使用する場合のProxyARP動作モードに関する設定を行います。

1 ルータの [詳細設定] をクリックします。

2 [ProxyARPの設定] をクリックします。

3 ProxyARPの動作モードを選択します。

ProxyARPの設定

- しない
- 中継すべきアドレスのARPに答える
- 全てのアドレスのARPに答える

4 [送信] をクリックします。

設定内容がMUCHO-E/EXに送信され、確認画面が表示されます。

5 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(☞ P 39)

RIPの制御

IPルーティングを使用する場合のRIPの動作モードに関する設定を行います。

1 ルータの [詳細設定] をクリックします。

2 [RIPの設定] をクリックします。

3 RIPを設定します。

RIPの制御

ルーティングは

- スタティックのみ
- スタティックとRIPを併用する

受信RIPフィルタリングに設定されているエントリーに

- 一致しないRIP情報を有効にする
- 一致したRIP情報を有効にする

送信RIPフィルタリングに設定されているエントリーに

- 一致しないRIP情報を有効にする
- 一致したRIP情報を有効にする

• [ルーティング]

RIPを利用したルーティング (ダイナミックルーティング) の動作を選択します。

• [受信RIPフィルタリングに設定されているエントリー]

受信RIPフィルタリング機能の動作モードを設定します。

受信RIPフィルタリングテーブルを設定してください。

(←P243)

• [送信RIPフィルタリングに設定されているエントリー]

送信RIPフィルタリング機能の動作モードを設定します。

送信RIPフィルタリングテーブルを設定してください。

(←P244)

4 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

5 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。

(←P39)

受信RIPフィルタリングテーブル

RIPフィルタリング機能のフィルタリングテーブルを設定します。RIPパケット受信時に有効にする情報を受信インタフェースごとに限定することができます。40件まで設定できます。事前にRIPの制御の設定が必要です。(☞P242)

1 ルータの [詳細設定] をクリックします。

2 [受信RIPフィルタリングテーブル] をクリックします。

3 受信フィルタリングテーブルを追加またはレコードを選択します。

新規または追加で受信フィルタリングテーブルを登録するときは、[新規登録]をクリックします。

4 受信RIPフィルタリングテーブルを設定します。

受信RIPフィルタリングテーブル		
RIPの宛先IPアドレス	アドレスマスク	受信インタフェース
新規		全て

- [RIPの宛先IPアドレス]
受信ルーティング情報のフィルタリングの対象とする宛先IPアドレスを入力します。
- [アドレスマスク]
宛先IPアドレスに対するマスクパターンを入力します。
- [受信インタフェース]
受信インタフェースを選択します。シリアルインタフェースはMUCHO-EXだけが選択できます。

5 [送信] ボタンをクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

6 [OK] ボタンをクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。(☞P39)

ワンポイント

登録済みの受信フィルタリングテーブルを修正または削除するとき
手順3で、修正または削除するレコード番号をクリックしてください。レコード内容が表示されたら、内容の修正または削除をクリックして選択します。
以降の操作は新規登録時と同じ操作です。

続けて登録済みの受信フィルタリングテーブルを修正または削除するとき
登録済みの受信フィルタリングテーブルの修正または削除後、続けて他のレコードの修正・削除をすることができます。
画面下部の「他の選択」で修正または削除するレコード番号をクリックしてください。

送信RIPフィルタリングテーブル

RIPフィルタリング機能のフィルタリングテーブルを設定します。RIPパケット送信時に有効にする情報を送信インタフェースごとに限定することができます。40件まで設定できます。

- 1 ルータの [詳細設定] をクリックします。
- 2 [送信RIPフィルタリングテーブル] をクリックします。
- 3 送信フィルタリングテーブルを追加またはレコードを選択します。
新規または追加で送信フィルタリングテーブルを登録するときは、[新規登録] をクリックします。
- 4 送信RIPフィルタリングテーブルを設定します。

- [RIPの宛先IPアドレス]
送信ルーティング情報のフィルタリングの対象とする宛先IPアドレスを入力します。
- [アドレスマスク]
宛先IPアドレスに対するマスクパターンを入力します。
- [送信インタフェース]
送信インタフェースを選択します。シリアルインタフェースはMUCHO-EXだけが選択できます。

- 5 [送信] をクリックします。
設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。
- 6 [OK] をクリックします。
設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(← P 39)

ワンポイント

登録済みの送信フィルタリングテーブルを修正または削除するとき
手順3で、修正または削除するレコード番号をクリックしてください。レコード内容が表示されたら、内容の修正または削除をクリックして選択します。
以降の操作は新規登録時と同じ操作です。

続けて登録済みの送信フィルタリングテーブルを修正または削除するとき
登録済みの送信フィルタリングテーブルの修正または削除後、続けて他のレコードの修正・削除をすることができます。
画面下部の「他の選択」で修正または削除するレコード番号をクリックしてください。

ルート情報提供ルータの指定

有効なルーティング情報を提供してくれるゲートウェイのIPアドレスを設定します。

- 1 ルータの [詳細設定] をクリックします。
- 2 [ルート情報提供ルータの指定] をクリックします。
- 3 有効なルーティング情報を提供してくれるゲートウェイのIPアドレスを登録または削除します。

装置導入時は未設定です。

ルート情報提供ルータの指定			
該当ルータのIPアドレス			
1.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
3.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
4.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
5.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

- [該当ルータのIPアドレス]
有効な情報を提供してくれるゲートウェイのIPアドレスを入力します。

- 4 [送信] をクリックします。
設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。
設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(☞ P 39)

4
使う
ルータ機能
を

ブリッジングの設定 (MUCHO-EXのみ)

MUCHO-EXでは、TCP/IP以外のデータをブリッジングすることができます。

- 1 ルータの [詳細設定] をクリックします。
- 2 [ブリッジングの設定] をクリックします。
- 3 ブリッジングを利用するかどうかを選択します。

ブリッジングの設定

- 利用しない
- 利用する

- 4 [送信] をクリックします。
設定内容がMUCHO-EXに送信され、確認画面が表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。
設定内容を有効にするには、MUCHO-EXのリセットが必要です。
(← P 39)

データリンクの設定

BACPの動作モードとデータリンクに関する項目を設定します。

- 1 ルータの [詳細設定] をクリックします。
- 2 [データリンクの設定] をクリックします。
- 3 BACPの動作モードとデータリンクに関する項目を設定します。

データリンクの設定

フラグ同期監視:

- しない
- する

BACP:

- 利用しない
- 利用する

BACPを利用する場合、そのプロトコルは

- 新版を利用する
- 旧版を利用する

データ圧縮:

- しない
- 接続相手に合わせる
- する

データ圧縮する場合

- RFCに準拠する
- 独自手順を利用する

- プロトコルフィールドを含む
- プロトコルフィールドを含まない

TCP/IPヘッダ圧縮:

- しない
- する

TCP/IPヘッダ圧縮する場合、対象セッション数を指定して下さい。

セッション

次ページへ続く

4
使う
ルータ
機能
を

- [フラグ同期監視]
WAN回線上のフラグ同期監視モードを指定します。
- [BACP]
R-BODを実現するための手順です。ここでは、BACPを利用するかどうかを選択します。利用する場合は、新版と旧版のどちらのプロトコルを利用するか選択してください。
- [データ圧縮]
データ圧縮の方法を選択します。
 - しない データの圧縮動作を行いません。
 - 接続相手に合わせる 接続相手と圧縮アルゴリズムのネゴシエーションを行います。ネゴシエーションが完了すれば圧縮データの送受信を行い、完了できなければ圧縮データの送受信は行いません。
 - する ネゴシエーションを行い、その結果にかかわらず圧縮データの送受信を行います。データ圧縮の方法は、接続相手と同じものを選択してください。[データ圧縮する場合]を設定してください。
- [データ圧縮する場合]
< データ圧縮指定 >
 - RFCに準拠する RFC1974準拠に従った圧縮が行われます。
 - 独自手順を利用する RFC1974に準拠していない一部の圧縮に対応します。< データ圧縮プロトコルフィールド圧縮指定 >
 - プロトコルフィールドを含む PPPプロトコルフィールドの圧縮を行います。
 - プロトコルフィールドを含まない PPPプロトコルフィールドの圧縮を行いません。
- [TCP/IPヘッダ圧縮]
TCP/IPヘッダ圧縮をするかどうかを選択します。ヘッダ圧縮を行う場合は、対象とするコネクションの数を入力してください。

4 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

5 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(← P39)

ダイヤルアップ回線制御

回線の接続と切断などダイヤルアップ接続時に使用する機能が [ダイヤルアップ回線制御] にまとめられています。[ダイヤルアップ回線制御] 画面を表示し、メニューの中から使用する機能を選択してください。

ダイヤルアップ回線制御画面を表示する

- 1 [ダイヤルアップ回線制御] をクリックします。[ダイヤルアップ回線制御] 画面が表示されます。



- 2 制御したい項目をクリックします。

- 回線の接続を行う (☞P250)
- 接続されている回線を切断する (☞P252)
- ISDN回線のMP接続を行う (☞P254)
- MP接続しているISDN回線を切断する (☞P255)
- リミッタ接続制限を接続相手ごとに解除する (☞P256)

ISDN回線 / シリアル回線を接続する(connectコマンド)

ISDNの接続は、通常はLANからの送信データを受け自動的に行われます。ここでは、手動でISDNを接続する方法を説明します。MUCHO-EXでは、シリアル回線も接続できます。

< Webブラウザ操作 >

1 [ダイヤルアップ回線制御] 制御画面で、[回線の接続を行う] をクリックします。

[回線の接続を行う] 画面が表示されます。

2 接続する回線や接続先を設定します。

回線の接続を行う

回線状況

回線	接続先	MP接続
isdn1	privatelSP(12345678901)	-
isdn2	privatelSP(12345678901)	○
modem	-	-

接続する回線: [ISDN] 接続先: [remotetarget00]
無通信監視時間[60] 秒 (0は無制限、最大3600まで有効)

- [接続する回線]
ISDN1チャンネルとISDN2チャンネルのうち、接続に使用する回線を選びます。MUCHO-EXではモデムも選べます。
- [接続先]
接続するアクセスポイントなどのISDNリモートターゲットを選びます。
- [無通信監視時間]
通信相手とデータのやりとりがないときに、通信を切断することができます。監視する場合は、監視時間を秒単位で設定します。最大3600秒まで設定できます。無通信監視を設定しない場合は、0を設定してください。

3 [送信] をクリックします。

回線が接続されます。

<コマンド操作>

1 「connect」に続いて、接続したいチャンネルと接続相手の名前を入力します。接続相手の名前は、P225で設定します。

データがなくなってからISDNを切断するまでの時間(秒)を指定することができます。

(例) B1チャンネルで、tokyoに接続する。30秒間データがなかったら、ISDNを切断する。

```
#connect -1 Tokyo -i 30
```

2 回線を接続し、コマンド入力待ち状態になります。

```
#connect -1 Tokyo  
(Tokyo)  
#
```

接続に失敗した場合は [***Command error.(errcode=xxxx)] と表示されます。

接続に失敗した場合は、P286をご覧ください。

4
ルータ機能を
使う

お知らせ

[-i] を省略した場合は、発呼時に無通信監視時間を監視して回線を切る時間の設定に従います。

回線の接続状況は、lineisコマンドで知ることができます。

ISDN回線 / シリアル回線を切断する (disconnectコマンド)

ISDNの切断は、中継データがなくなったことにより自動的に行われます*。ここでは、手動でISDNを切断する方法を説明します。MUCHO-EXでは、シリアル回線も切断できます。

*本装置は、中継データを監視し、60秒間中継データがない場合にISDNを切断します。

< Webブラウザ操作 >

1 [ダイヤルアップ回線制御] 制御画面で、[接続されている回線を切断する] をクリックします。

[接続されている回線を切断する] 画面が表示されます。

2 [切断する回線] の中から、切断したい回線を選びます。

接続されている回線を切断する

回線状況

回線	接続先	MP接続
isdn1	privatelSP(12345678901)	-
isdn2	privatelSP(12345678901)	○
modem	-	-

切断する回線: isdn1

・ [回線状況]

現在使われている回線状況が表示されます。

・ [切断する回線]

切断する回線を選びます。MUCHO-EXではモデムも選べます。

3 [送信] をクリックします。

回線が切断されます。

<コマンド操作>

1 「disconnect」と入力します。

```
#disconnect
```

2 切断したい相手を選択します。

「both」は両方のBチャンネルを切断します。接続している回線が1回線の場合は、この問い合わせはありません。

(例) Tokyo、Osakaと接続していて、両方を切断する場合

```
#disconnect  
Select line (1.Tokyo 2.Osaka 3.both) 3
```

3 回線を切断し、コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

切断に失敗した場合は [***Command error.(errcode=xxxx)] と表示されます。

切断に失敗した場合は、P286をご覧ください。

4
使う
ルータ
機能を

お知らせ

コマンドを実行しても切断できない場合は、MUCHOの電源をOFFにし、ご使用のネットワーク環境をご確認ください。回線の接続状況は、lineisコマンドで知ることができます。

ISDN回線のMP接続を行う (Isplitコマンド)

トラフィックを分散するための回線接続は、ISDN回線の負荷により自動的に行われます。ここでは、手動でトラフィック分散回線を接続する方法を説明します。

< Webブラウザ操作 >

- 1 [ダイヤルアップ回線制御] 制御画面で、[ISDN回線のMP接続を行う] をクリックします。

[ISDN回線のMP接続を行う] 画面が表示されます。

- 2 [送信] をクリックします。

通常回線の接続先にMP接続が行われます。

ISDN回線のMP接続を行う

回線状況

回線	接続先	MP接続
isdn1	privatelSP(12345678901)	—
isdn2	privatelSP(12345678901)	○
modem	—	—

通常回線接続先に対してMP接続を行う

• [回線状況]

現在使われている回線状況が表示されます。

< コマンド操作 >

- 1 「Isplit on」と入力します。

```
#Isplit on
```

- 2 トラフィック分散回線を接続し、コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

接続に失敗した場合は [***Command error.(errcode=xxxx).] と表示されます。

接続に失敗した場合は、P286をご覧ください。

お知らせ

回線の接続状況は、lineisコマンドで知ることができます。

注意

トラフィック分散を行うと、ISDN回線を2チャンネル接続することになり、ISDNの料金は2倍かかります。

MP接続しているISDN回線を切断する (Isplitコマンド)

MP接続を手動で解除する方法について説明します。

< Webブラウザ操作 >

- 1 [ダイヤルアップ回線制御] 制御画面で、
[MP接続しているISDN回線を切断する] を
クリックします。

[MP接続しているISDN回線を切断する] 画面が表示されます。

- 2 [送信] をクリックします。

MP接続が切断されます。

MP接続してるISDN回線を切断する

回線状況

回線	接続先	MP接続
isdn1	privateISP(12345678901)	—
isdn2	privateISP(12345678901)	○
modem	—	—

MP接続を解除する

- [回線状況]
現在使われている回線状況が表示されます。

< コマンド操作 >

- 1 「Isplit off」と入力します。

```
#Isplit off
```

- 2 トラフィック分散回線を切断し、コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

切断に失敗した場合は [***Command error. (errcode=xxxx).] と表示されます。

切断に失敗した場合は、P286をご覧ください。

お知らせ

コマンドを実行しても切断できない場合は、MUCHOの電源をOFFし、ご使用のネットワーク環境をご確認ください。
回線の接続状況は、lineisコマンドで知ることができます。

リミッタを解除するには (unlockコマンド)

接続相手ごとのリミッタ状況を表示します。リミッタが働いていて接続不可能になっている接続先のリミッタが解除できます。

< Webブラウザ操作 >

1 [ダイヤルアップ回線制御] 制御画面で、[リミッタ接続制限を接続相手毎に解除する] をクリックします。

[リミッタ接続制限を接続相手毎に解除する] 画面が表示されます。

2 [リミッタ接続制限を解除する接続先] の中から、リミッタを解除する接続先を選びます。



• [接続制限状況]

接続先ごとに接続制限状況が表示されます。

接続形態	説明
-	リミッタの監視対象外の接続先です。
○	リミッタが監視中の接続先です。
×	リミッタが働いていて、接続が不可能な接続先です。

3 [送信] をクリックします。

リミッタが解除され、接続できるようになります。

< コマンド操作 >

1 すべての接続先のリミッタを解除するには、「unlock all」と入力します。

(例) すべての接続先のリミッタを解除する

```
#unlock all
```

2 接続先のリミッタを解除し、コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

お知らせ

targetisコマンドで表示されるlimiterStatusの項目で、接続先ごとのリミッタの状況を知ることができます。

通信ログなど本装置の運用やメンテナンスに必要な情報をインフォメーションで表示することができます。[インフォメーション]画面を表示し、メニューの中から使用する機能を選択してください。

インフォメーション画面を表示する

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション]をクリックします。
[インフォメーション]画面が表示されます。

2 表示したい項目をクリックします。

インフォメーション

装置に付いて

ダイヤルアップ接続先情報の表示

通信状態の表示

統計情報の表示

ルーティングインタフェースの表示

ルーティング状態の表示

DHCPの状態表示

NAT⁺の状態表示

エラーログの表示

回線ログの表示

接続要因パケットログの表示

- 装置について (☞P258)
- ダイヤルアップ接続先情報の表示 (☞P259)
- 通信状態の表示 (☞P261)
- 統計情報の表示 (☞P263)
- ルーティングインタフェースの表示 (☞P267)
- ルーティング状態の表示 (☞P269)
- DHCPの状態表示 (☞P270)
- NAT⁺の状態表示 (☞P272)
- エラーログの表示 (☞P273)
- 回線ログの表示 (☞P274)
- 接続要因パケットログの表示 (☞P276)

装置情報を表示するには (hereisコマンド、uptimeコマンド、dateコマンド)

本装置のID、システムアップ時間、現在時刻を表示することができます。

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション]画面で、[装置について]をクリックします。

[装置について]画面が表示されます。

ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。



画面のみかた

項目	説明
装置IDの表示	装置を識別する内容として次を表示します。 装置名/装置版数/ファームウェア版数と作成日/装置のMACアドレス
システムアップ時間	装置が起動されてからの経過時間を、「日数，時間：分：秒（時間：分：秒）」で表示します。 示可能な最大経過時間は497日です。
装置現在時刻	現在時刻として、年月日時分秒を設定 / 表示します。

< コマンド操作 >

項目	説明
装置IDの表示	hereis
システムアップ時間	uptime
装置現在時刻	date

1 「hereis」、「uptime」、「date」のいずれかを入力します。

(例) 本装置のIDを表示する。

```
#hereis
```

2 本装置のIDが以下のように表示されます。

```
#hereis :  
MUCHO TypeB A V24.30 1998.06.25 ( 00:80:bd:10:0e:7d )
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

ダイヤルアップ接続先情報を表示するには (targetis コマンド)

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション] 画面で、[ダイヤルアップ接続先情報の表示] をクリックします。

ダイヤルアップの接続先に関する情報が表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

同一のISDN番号に対して複数のターゲット名が登録されている場合 (トラヒック分散を用いる場合等)、複数のターゲットに対する課金リミッタの情報は、最初に登録されたターゲットが対象となります。

ダイヤルアップ接続先情報の表示

```
<aite>  
0483251374 limiterStatus:off  
connectMax:0(sec) connectCurrent:0(sec)  
connectSpeed:64(Kbps)  
hostName:default  
<aite-ls>  
0483251374 limiterStatus:off  
connectMax:0(sec) connectCurrent:0(sec)  
connectSpeed:64(Kbps)  
hostName:default  
<test>  
*1234 limiterStatus:off  
connectMax:0(sec) connectCurrent:0(sec)  
connectSpeed:64(Kbps)  
hostName:
```

< 表示内容 >

- ターゲット名称
- ターゲットISDN番号とISDNサブアドレス
- 課金リミッタの状態 (off,normal,which is bombarded)
- リミッタ機能停止
- 連続接続最大時間
- 現在または最新の連続接続時間
- 接続回線速度
- 自ホスト名称

4
ルータ機能
を使う

< コマンド操作 >

1 「targetis」と入力します。

```
#targetis
```

2 ダイヤルアップの接続先情報が表示されます。

```
<aite>
03xxxxxxx limiterStatus:off
connectMax:0 ( sec ) connectCurrent:0 ( sec )
connectSpeed:64 ( Kbps )
hostName:default
<aite-ls>
03yyyyyyy limiterStatus:off
connectMax:0 ( sec ) connectCurrent:0 ( sec )
connectSpeed:64 ( Kbps )
hostName:default
<test>
06zzzzzzz limiterStatus:off
connectMax:0 ( sec ) connectCurrent:0 ( sec )
connectSpeed:64 ( Kbps )
hostName:
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

通信状態を表示するには (chargeコマンド、 lineisコマンド)

通信状態の表示では、ISDNを使用した課金情報と回線情報を表示することができます。

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション] 画面で、[通信状態の表示] をクリックします。

課金情報と回線情報が表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

通信状態の表示

課金情報:

```
ISDN1 routing total charge(yen):      0
ISDN2 routing total charge(yen):      0
TEL1 charge(yen):      0 total charge(yen):      0
TEL2 charge(yen):      30 total charge(yen):      0
```

課金情報のみかた

上記の例では、B1チャンネルでのルーティング (ISDN1 routing total charge (yen)) に1560円、B2チャンネルでのルーティング (ISDN2 routing total charge (yen)) に500円かかっていることがわかります。

TEL1 charge (yen) は、最新のTEL1ポートの課金情報を、total charge (yen) は、TEL1ポートの課金情報を表示します。TEL2 charge (yen) は、最新のTEL2ポートの課金情報を、total charge (yen) は、TEL2ポートの課金情報を表示します。

回線情報:

```
<LAN>
interface:ISDN802-3
<HSD>
speed: 8(Kbps)
operationStatus:clear layer1Status:other
<I>
0463261872*1234567
operationStatus:clear layer1Status:up connectStatus:notconnected
Usage:normal
target:test(*1234)
maxRetryCalling:0(times) idleStatusTimer:88(sec) congestionTimer:1(sec)
continuousConnectionCurrentTime:0(minutes)
```

回線情報のみかた

接続形態	説明
LAN回線	<ul style="list-style-type: none"> 回線インタフェース名 (interface)
HSD	<ul style="list-style-type: none"> 回線速度 (speed) 回線使用状態 (operationStatus) HSD回線の状態 (layer1Status)
ISDN	<ul style="list-style-type: none"> 回線使用状態 (operationStatus) ISDN回線の状態 (layer1Status) チャンネルの状態 (connectStatus) 回線運用状態 (Usage) 接続相手 (target) 発呼最大リトライ回数 (maxRetryCalling) 無通信監視タイマ (idleStatusTimer) 輻輳監視タイマ (congestionTimer) 連続接続時間 (continuousConnectionCurrentTime) フレックスホン契約状況

4
使
ル
タ
機
能
を

< コマンド操作 >

1 課金情報を表示するには「charge」、回線情報を表示するには「lineis」と入力します。

(例) 課金情報を表示する。

```
#charge
```

2 本装置の持つ課金情報が、以下のように表示されます。

```
ISDN1 routing total charge (yen) : 1560
ISDN2 routing total charge (yen) : 500
TEL1 charge (yen) : 30 total charge (yen) : 1500
TEL2 charge (yen) : 0 total charge (yen) : 0
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

統計情報を表示するには (stchannelコマンド、 stipコマンド)

統計情報の表示では、回線統計情報とルーティング統計情報を表示することができます。
回線統計情報として、現在、ルーティングで使用しているチャンネルの統計を表示します。
IPルーティングの統計情報では次の項目を表示します。

- IPパケット統計情報
- ICMPパケット統計情報
- UDPパケット統計情報
- TCPパケット統計情報
- RIPパケット統計情報

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション]画面で、[統計情報の表示]をクリックします。

回線統計情報とルーティング統計情報が表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

統計情報の表示

回線統計情報:

```

<lan>
alignment error frames:      0
FCS error frames           : 0
collision count             : 6
<hsd>
congestion count           : 0
HSD error count            : 0
<1>
congestion count           : 0
load split count           : 0 load split error count: 0
total time(sec)           : 0 total charge(yen): 0
call setup count          : 0 call error count  : 0
call busy count           : 0
<2>
congestion count           : 0
total time(sec)           : 0 total charge(yen): 0
call setup count          : 0 call error count  : 0
call busy count           : 0
    
```

ルーティング統計情報:

```

<IP>
in packet                   : 10846  in discard packet : 4506
in header error packet     : 0      in address error packet: 0
out request packet         : 930    out discard packet  : 0
forward packet             : 0    no route packet    : 0
<ICMP>
in message packet         : 19   in error packet : 0
out message packet       : 3    out error packet: 0
<UDP>
in datagram packet       : 6188  in error packet : 987
no port packet          : 0    out datagram packet: 784
<TCP>
in segment packet       : 295   out segment packet: 188
in error packet         : 0    passive open count: 4
<RIP>
in packet                : 5189  sent packet      : 786
out request packet       : 1    in reply packet  : 5178
flash update packet     : 0    send error packet: 0
bad receive packet      : 0
    
```

4
使う
ルータ機能

LAN

項目	意味
alignment error frames	フレーム長がオクテット整数でなく、FCSチェックにもエラーした受信フレームの総数
FCS error frames	フレーム長はオクテット整数だがFCSエラーで廃棄された受信フレーム総数
collision count	コリジョン発生回数

HSD

項目	意味
congestion count	輻輳発生回数
HSD error count	通常回線障害発生回数

ISDN

項目	意味
congestion count	輻輳発生回数
load split count	トラヒック分散回線の接続回数
load split error	トラヒック分散回線の障害発生回数
total time	ISDNの接続時間の合計（秒）
total charge	ISDNの使用料金の合計（円）
call setup count	ISDNを接続した回数
call error count	ISDNを接続した際エラーで解放された回数
call busy count	ISDNを接続した際相手ビジーで解放された回数

ルーティング統計情報のみかた

IP

項目	意味
in packet	総入力IPパケット数
in discard packet	廃棄された入力パケット数
in header errors packet	IPヘッダエラー受信パケット数
in address error packet	IPアドレスエラー受信パケット数
out request packet	送信要求パケット数
out discard packet	内部資源不足のため廃棄された送信要求パケット数
forward packet	フォワーディングの必要のある受信パケット数
no route packet	送信経路がないため廃棄された送信要求パケット数

ICMP

項目	意味
in message packet	受信ICMPパケット数（エラー含む）
in error packet	受信ICMPエラーパケット数
out message packet	送信ICMPパケット数（エラー含む）
out error packet	送信ICMPエラーパケット数

UDP

項目	意味
in datagram packet	受信UDPデータグラム数
in error packet	受信エラーUDPデータグラム数 (チェックサムエラー等)
no port packet	受信エラーUDPデータグラム数 (不正宛先ポート)
out datagram packet	送信UDPデータグラム数

ICP

項目	意味
in segment packet	受信TCPセグメント数
out segment packet	送信TCPセグメント数
in error packet	受信エラーTCPセグメント数 (チェックサムエラー等)
passive open count	受動オープンした回数

RIP

項目	意味
in packet	受信RIPパケット数
sent packet	送信RIPパケット数
out request packet	送信RIP要求パケット数
in reply packet	受信RIPリプライパケット数
flash update packet	「triggered update」した回数
send error packet	送信エラーパケット数
bad receive packet	受信エラーパケット数

<コマンド操作>

- 1 回線の統計情報を表示するには「stchannel」、ルーティングの統計情報を表示するには「stip」と入力します。

(例) 回線の統計情報を表示する。

```
#stchannel
```

- 2 回線の統計情報が以下のように表示されます。

```
<lan>
alignment error frames:      0
FCS error frames   :      0
collision count    :      6
<hsd>
congestion count:      0
HSD error count :      0
<1>
congestion count:      0
load split count:      0 load split error count:      0
total time ( sec ) :      0 total charge ( yen ) :      0
call setup count:      0 call error count :      0
call busy count :      0
<2>
congestion count:      0
total time ( sec ) :      0 total charge ( yen ) :      0
call setup count:      0 call error count :      0
call busy count :      0a
```

- 3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

ルーティングインタフェースを表示するには (ipinterface コマンド)

IPインタフェースの情報として次の内容をインタフェースごとに表示します。ただし、ダウンしているインタフェースに対しては表示を行いません。

- インタフェースのステータス
- インタフェースタイプ
- インタフェースアドレス
- インタフェースのIPアドレスサブネットマスク
- ブロードキャストアドレス
- リモートアドレス
- リモートサブネットマスク

NAT⁺を利用している時、ISDN回線のインタフェースアドレスは0.0.0.0と表示される場合があります。これは一度も接続が行われていない事を表わします。

<Webブラウザ操作>

1 [インフォメーション]画面で、[ルーティングインタフェースの表示]をクリックします。

ルーティングインタフェースに関する情報が表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

ルーティングインタフェースの表示

```
<LAN>
up broadcast
address:192.52.128.122 subnet:255.255.255.0 broadcast:192.52.128.255
<HSD>
down broadcast
<ISDN1>
up pointToPoint
address:192.52.128.122 remote:192.168.168.102 remotesubnet:255.255.255.255
<ISDN2>
down broadcast
```

<コマンド操作>

1 「ipinterface」と入力します。

```
#ipinterface
```

2 ルーティングインタフェースが以下のように表示されます。

```
<LAN>
up broadcast
address:192.168.1.1 subnet:255.255.255.0
broadcast:192.168.1.255
<HSD>
down broadcast
<ISDN1>
up pointToPoint
address:192.168.1.1 remote:192.168.168.102
remotesubnet:255.255.255.255
<ISDN2>
down broadcast
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

ルーティング状態を表示するには (iprouteコマンド)

IPルーティングテーブルの内容として次の内容を表示します。

- ルーティング情報を得た手段
- 宛先IPアドレスIPアドレスマスク
- 宛先に到達するために送信するゲートウェイのIPアドレス
- 経由するインタフェース経路タイプ

<Webブラウザ操作>

1 [インフォメーション]画面で、[ルーティング状態の表示]をクリックします。

ルーティング状態が表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

ルーティング状態の表示

```
rip 0.0.0.0 0.0.0.0 192.52.128.1 lan indirect
rip 1.0.0.0 255.0.0.0 192.52.128.1 lan indirect
other 127.0.0.1 255.255.255.255 127.0.0.1 lan direct
rip 158.202.0.0 255.255.0.0 192.52.128.1 lan indirect
rip 192.62.121.0 255.255.255.0 192.52.128.1 lan indirect
other 192.52.128.0 255.255.255.0 192.52.128.122 lan direct
rip 192.52.144.0 255.255.255.0 192.52.128.1 lan indirect
rip 192.168.29.0 255.255.255.0 192.52.128.22 lan indirect
rip 192.168.30.0 255.255.255.0 192.52.128.22 lan indirect
rip 192.168.32.0 255.255.255.0 192.52.128.210 lan indirect
rip 192.168.55.1 255.255.255.255 192.52.128.97 lan indirect
rip 192.168.96.1 255.255.255.255 192.52.128.97 lan indirect
rip 192.168.123.45 255.255.255.255 192.52.128.9 lan indirect
rip 192.168.126.0 255.255.255.0 192.52.128.200 lan indirect
rip 192.168.126-200 255.255.255.255 192.52.128.200 lan indirect
rip 192.168.131.0 255.255.255.0 192.52.128.97 lan indirect
rip 192.168.131.61 255.255.255.255 192.52.128.97 lan indirect
local 192.168.166.0 255.255.255.0 a11e isdn1 indirect
other 192.168.168.102 255.255.255.255 192.52.128.122 isdn1 direct
local 192.168.168.103 255.255.255.255 a11e isdn1 indirect
rip 192.168.202.0 255.255.255.0 192.52.128.97 lan indirect
rip 192.168.203.0 255.255.255.0 192.52.128.97 lan indirect
rip 192.168.204.0 255.255.255.0 192.52.128.97 lan indirect
rip 192.168.224.55 255.255.255.255 192.52.128.9 lan indirect
```

ルーティング状態のみかた

画面例では、以下の情報がわかります。

- 192.168.254.0ネットワークへは、LAN側の192.168.128.1ゲートウェイを通過して通信を行うことができる。
- この情報はRIPにより受信した。

項目		意味
ルーティング情報を得た手段	local	スタティック登録
	rip	RIPで学習
	other	localとrip以外
宛先IPアドレスIPアドレスマスク		—
宛先に到達するために送信するゲートウェイのIPアドレス		—
経由するインタフェース経路タイプ	direct	直接ルート等の自装置内の経路
経由するインタフェース経路タイプ	indirect	自装置以外の経路

次ページへ続く

4
使う
ルータ機能を

<コマンド操作>

1 「iproute」と入力します。

```
#iproute
```

2 ルーティング状態が以下のように表示されます。

```
rip 192.168.254.0 255.255.255.0 192.168.128.1 lan indirect
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

DHCPの状態を表示するには (dhcpstatコマンド)

DHCPサーバ機能がARPにより認識した (すでに利用済みの) IPアドレス、IP端末からのIPアドレス取得要求に対してDHCPサーバ機能が自動配布したIPアドレス、設定 (hosttableコマンド) により割り付けが決められているIPアドレスを表示します。

<Webブラウザ操作>

1 [インフォメーション]画面で、[DHCPの状態表示]をクリックします。

DHCPの状態が表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

DHCPの状態表示

```
a 08:00:20:0f:83:54 192.52.128.1
a 00:80:bd:f0:06:f4 192.52.128.8
a 00:80:bd:f0:06:8b 192.52.128.9
a 08:00:20:7b:4d:3a 192.52.128.13
a 00:80:bd:f0:04:3a 192.52.128.22
a 00:80:bd:f0:05:77 192.52.128.97
a 00:80:bd:f0:01:83 192.52.128.200
```

DHCPの状態表示のみかた

表示はIP端末とのペアで表示し、IP端末はIPアドレスで表わします。

「割り付けが決められているIPアドレス (S)」に関しては、前もって設定により決められた内容となりますので実際に使用されているかどうかの判断にはなりません。

内部的に「割り付けが決められているIPアドレス (S)」が「ARPにより認識した (既に利用済みの) IPアドレス (a)」とぶつかった場合は、現況優先により「ARPにより認識した (既に利用済みの) IPアドレス (a)」の内容を表示します。

これにより「割り付けが決められているIPアドレス (S)」があるにも関わらず、表示されない場合は、既にそのIPアドレスは使用されていると判断できます。

<コマンド操作>

1 「dhcpstat」と入力します。

```
# dhcpstat
```

2 DHCPの状態が以下のように表示されます。

```
a 08:00:20:0f:83:54 192.168.128.1
a 00:80:bd:f0:06:f4 192.168.128.8
a 00:80:bd:f0:06:6b 192.168.128.9
a 08:00:20:7b:4d:3a 192.168.128.13
a 00:80:bd:f0:04:9a 192.168.128.22
a 00:80:bd:f0:05:77 192.168.128.97
a 00:80:bd:f0:01:33 192.168.128.200
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

4
ルータ機能を
使う

NAT⁺の状態を表示するには(natinfoコマンド)

アドレス変換状況を取得して、NAT⁺の状態を表示します。

- LAN側の送信元IPアドレスとWAN側の変換後IPアドレスの組
- LAN側の送信元IPアドレスとWAN側の変換後IPアドレスの組に対応する宛先IPアドレス
- LAN側の送信元ポートとWAN側の変換後ポートの組
- LAN側の送信元ポートとWAN側の変換後ポートの組に対応する宛先ポートを表示します。

<Webブラウザ操作>

- 1 [インフォメーション]画面で、[NAT⁺の状態表示]をクリックします。

NAT⁺の状態が表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

NAT⁺の状態表示

```
10.10.10.10 (210.170.178.31)->202.216.224.66 32768 (32768)->53
10.10.10.10 (210.170.178.31)->210.155.3.205 2049 (2049)->23
210.170.178.31 (210.170.178.31)->210.155.3.205 12094 (12094)->12094
```

表示フォーマット

- LAN側送信元IPアドレス (WAN側変換後IPアドレス) 宛先IPアドレス
- LAN側送信元ポート (WAN側変換後ポート) 宛先ポート

<コマンド操作>

- 1 「natinfo」と入力します。

```
# natinfo
```

- 2 NAT⁺の状態が以下のように表示されます。

```
10.10.10.10 (210.170.178.31)->202.216.224.66 32768 (32768)->53
10.10.10.10 (210.170.178.31)->210.155.3.205 2049 (2049)->23
210.170.178.31 (210.170.178.31)->210.155.3.205 12094 (12094)->12094
```

- 3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

エラーログを表示するには(elogコマンド)

エラーに関するロギングとして次の項目を表示します。

- 通し番
- ログID
- ロギング時刻
- エラーコード
- タスクID
- ログメッセージ

<Webブラウザ操作>

1 [インフォメーション]画面で、[エラーログ表示]をクリックします。

エラーログが表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

エラーログの表示

```
seq uptime      date          tid logid  ecode
-----
968 0000:00:00.00 98/05/20 (wed) 14:31:48  0 00000000 00000000
      #Reset[V24.30-062598]
969 0000:00:00.00 98/05/20 (wed) 14:33:33  0 00000000 00000000
      #Reset[V24.30-062598]
970 0002:12:15.44 98/05/20 (wed) 16:45:48 10 0a003016 00000009
      telnet login fail from 192.52.128.1
971 0002:13:01.27 98/05/20 (wed) 16:46:34 10 0a003015 00000000
      telnet login success from 192.52.128.1
972 0002:27:56.10 98/05/20 (wed) 17:01:29 10 0a003015 00000000
      telnet login success from 192.52.128.1
973 0005:50:33.92 98/05/20 (wed) 20:24:06 10 0a003015 00000000
      telnet login success from 192.52.128.1
974 0006:21:05.19 98/05/20 (wed) 20:54:38 10 0a003015 00000000
      telnet login success from 192.52.128.1
975 0000:00:00.00 98/05/20 (wed) 20:55:43  0 00000000 00000000
      #Reset[V24.30-062598]
976 0000:00:00.54 98/05/20 (wed) 20:55:51 10 0a003015 00000000
```

<コマンド操作>

1 「elog」と入力します。

```
# elog
```

2 エラーログが以下のように表示されます。

```
seq uptime      date          tid logid  ecode
-----
968 0000:00:00.00 98/05/20 (wed) 14:31:48  0 00000000 00000000
      #Reset [ V24.30-062598 ]
969 0000:00:00.00 98/05/20 (wed) 14:33:33  0 00000000 00000000
      #Reset [ V24.30-062598 ]
970 0002:12:15.44 98/05/20 (wed) 16:45:48 10 0a003016 00000009
      telnet login fail from 192.52.128.1
971 0002:13:01.27 98/05/20 (wed) 16:46:34 10 0a003015 00000000
      telnet login success from 192.52.128.1
972 0002:27:56.10 98/05/20 (wed) 17:01:29 10 0a003015 00000000
      telnet login success from 192.52.128.1
973 0005:50:33.92 98/05/20 (wed) 20:24:06 10 0a003015 00000000
      telnet login success from 192.52.128.1
974 0006:21:05.19 98/05/20 (wed) 20:54:38 10 0a003015 00000000
      telnet login success from 192.52.128.1
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

4
使う
ルータ機能
を

回線ログを表示するには (llogコマンド)

回線に関するロギングとして次の項目を表示します。

- 通し番号
- ロギング時刻
- 回線種別
- エラーコード
- ログメッセージ

切断時や接続が失敗した時などは網からその原因が通知されます。その内容は切断時のログ (ログメッセージが “Disconnected”) や接続失敗時のログ (ログメッセージが “Connect fail”) の「エラーコード」に16進値で記録されています。PPPでの認証失敗時やデータリンクレベルでの接続失敗時の原因も記録されます。

<Webブラウザ操作>

1 [インフォメーション]画面で、[回線ログ表示]をクリックします。

回線ログが表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

```

回線ログの表示

LAN:

seq uptime      date                channel  ecode
-----
061 0000:00:00.00 98/05/20 (wed) 14:31:48 LAN    00000000
#Reset [Y24.30-062538]
062 0000:00:00.01 98/05/20 (wed) 14:33:33 LAN    00000000
#Reset [Y24.30-062538]
063 0000:00:00.01 98/05/20 (wed) 20:55:43 LAN    00000000
#Reset [Y24.30-062538]
064 0000:00:00.01 98/05/20 (wed) 20:57:28 LAN    00000000
#Reset [Y24.30-062538]
    
```

回線ログのみかた

項目名	意味
seq	シーケンス番号
uptime	操作が起動してからの時間 (時間・分・秒)
channel	選択した回線
ecode	回線の状況

<コマンド操作>

1 「llog」を入力します。

LAN、WAN回線個別の状況を確認する場合は、「llog」のあとに以下のオプションをつけてください。

回線種別	オプション	説明
LAN	-l	
高速デジタル専用線	-h	
ISDN#1	-1	ISDNのB1チャンネル側
ISDN#2	-2	ISDNのB2チャンネル側
ASYNC	-a	ASYNC回線

(例) LANの状況を確認する。

```
#llog -l
```

2 表示された内容により、LAN、WAN回線の状況を確認します。

```
#llog -l
seq uptime      channel ecode
-----
000 0000:00:00.00 LAN  00000000
#P_ON [ V00.00-012097 ]
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

4
使う
ルータ
機能を

お知らせ

ラインログの最大ログ件数は回線ごとに20件です。20件以上のログは、最も古いログから上書きして行きます。

接続要因パケットログを表示するには (alogコマンド)

ISDN回線を接続する原因となったデータのログを表示します。次の3種類のログを採取しています。

- 発呼した時間と回線
- 発呼した相手の電話番号
- 発呼の原因となったデータ (パケット) の内容

<Webブラウザ操作>

1 [インフォメーション]画面で、[接続要因パケットログの表示]をクリックします。

接続要因パケットログが表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

接続要因パケットログの表示

```
0: 1998/01/01 (thu) 00:00:00 (00000000:00000000 0x00303554(0))
#Reset [V24.30-062598]

1: 1998/01/01 (thu) 02:58:52 (00106031:00000000 0x003c6c70(104))
ISDN#1 Calling 0463251374.
00 3c 6c 70 00 3c 6c 70 00 3e c2 00 20 00 00 00 .<|p.<|p.>... ..
00 04 80 00 00 10 80 31 00 00 00 00 00 04 00 04 .....1.....
80 00 00 00 00 00 54 45 00 00 54 00 af 00 00 .....TE..T....
fd 01 12 ce c0 34 80 e0 c0 a8 a8 86 08 00 4e 50 .....4.....f...NP
df 55 00 00 00 01 df 55 00 00 00 08 09 0a 0b .U.....U.....
0c 0d 0e 0f 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 1a 1b .....
1c 1d 1e 1f 20 21 22 23 .....!#

2: 1998/01/01 (thu) 18:29:11 (00658c85:00000000 0x003c8548(104))
ISDN#1 Calling 0463251374.
00 3c 85 48 00 3c 85 48 00 3e f5 00 20 00 00 00 .<.H.<.H.>... ..
00 04 80 00 00 65 8c 84 00 00 00 00 00 04 00 04 .....e.....
80 00 00 00 00 00 54 45 00 00 54 04 88 00 00 .....TE..T....
fd 01 0f ba c0 34 80 6f c0 a8 a8 19 00 00 cd 01 .....4.o.....
01 ac 00 36 35 e2 43 0f 00 05 cd 22 08 08 0a 0b ...65.C.....
0c 0d 0e 0f 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 1a 1b .....
1c 1d 1e 1f 20 21 22 23 .....!#
```

回線ログのみかた

項目名	説明
*1	発呼した時刻
*2	発呼した回線と電話番号
*3	プロトコル識別
*4	発呼したパケットの内容の一部(PPPのヘッダーを除いた先頭から64バイト分)

<コマンド操作>

1 「alog」と入力し、Enterを押します。

```
#alog
```

2 ログが以下のように表示されます。

```
0: 1998/01/01 (thu) 00:00:00 (00000000:00000000 0x00303554 (0))
   #Reset [V24.30-062598]

1: 1998/01/01 (thu) 02:58:52 (00106031:00000000 0x003c6c70 (104))
   ISDN#1 Calling 0463251374.
   00 3c 6c 70 00 3c 6c 70 00 3e c2 00 20 00 00 00  .<lp.<lp>.. ...
   00 04 80 00 00 10 60 31 00 00 00 00 00 04 00 04  .....1.....
   80 00 00 00 00 00 00 54 45 00 00 54 00 af 00 00  .....TE..T...
   fd 01 12 ce c0 34 80 e8 c0 a8 a8 66 08 00 4e 50  ....4....f..NP
   df 55 00 00 00 01 df 55 00 00 00 00 08 09 0a 0b  .U...U.....
   0c 0d 0e 0f 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 1a 1b  .....
   1c 1d 1e 1f 20 21 22 23  .....!#
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

4
ルータ機能を
使う